

令和5年度

事業報告

社会福祉法人 熊野市社会福祉協議会

目次

■令和5年度を終えて	1
■事業報告	
I 法人運営	2
1 円滑な法人運営と財源確保	2
2 適正な会計管理と基金の運営	3
3 職員研修の充実	4
4 広報の充実	6
5 人事考課制度導入の検討	6
6 福利厚生 of 充実	7
II 地域福祉事業	8
1 地域福祉に関する理解促進と活動の推進	8
2 ふれあいの場づくりへの支援	8
3 権利擁護の推進等	9
4 生活困窮者への支援	9
5 障がい者の社会参加と生きがい活動の支援	9
6 在宅生活支援と敬老事業	10
7 住民同士のつながりのきっかけづくりと世代間交流の推進	10
8 福祉教育	10
9 熊野市老人福祉大会の開催	11
10 ボランティアセンターの運営	11
11 災害ボランティアセンターの体制づくり	11
III 福祉サービス事業	12
1 居宅介護支援事業の運営	12
2 訪問介護事業の運営	12
3 通所介護事業の運営	13
4 訪問入浴介護事業の運営	14
5 障がい福祉事業の運営	15
6 介護予防事業の実施	17
IV 巻末資料	18

令和5年度を終えて

令和5年5月をもって新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に移行し、日本国内の人々の意識もコロナ禍以前に戻ったように感じます。1年が経過した現在、国内の経済活動も、変わらざるを得ない業種もあるものの、従前の状態といえると思います。

福祉事業の内、高齢者や障がい者をサービスの対象とする業界においては、ピーク時と比較すると幾分緊張感が和らいだ感じもありますが、まだまだ感染から他の疾病を発症し、重症化する事案が発生しており、一般的な経済活動、日常生活の様には以前の状態に戻すことができていないというのが実情です。

コロナ禍以前からの課題であります「人材不足」については、令和5年度も普通退職があり、その補充もできていません。訪問介護事業では登録ヘルパー不足により、プランに沿ったサービスが十分に提供できず、通所介護事業においては、人員不足により、他の係からの応援というその場しのぎの方策で、なんとか年度を終えることができたといった状況です。この人員不足の影響により全体の収益低下を招き、令和5年度は10,000千円余りの赤字決算報告をしなければならない非常に厳しい結果となりました。

地域福祉事業については、概ね1年を通して以前の形態で事業を実施することができました。コロナ禍で変更を余儀なくされた部分もありますが、できる限り従来の形で地区社協の協力のもと、さまざまな事業を展開しました。また、元日の能登半島地震発生を受け、義援金の街頭募金運動や、三重県社会福祉協議会とともに被災地社会福祉協議会への支援を行い、法人の災害に対する意識を改めて高めました。このことについては今年度更に取り組む必要を感じました。

この1年を振り返ってみますと、感染症対策での心身の疲弊が続き、また、経営の不振も重なる非常に精神的に苦しい年ではありましたが、福利厚生や、研修の開催と受講については、例年通り行い、職員の心のケアと、住民へのサービス向上について法人として変わらぬ姿勢で望み、厳しい状況ではありながら、無事、皆が健康で笑顔を保ちながら年度を終えることができました。この状況を作り出せたことは当法人の力だけではなく、常に支えてくださる、行政、関係事業所と、地区社協、民生委員児童委員をはじめとした住民の皆様のお陰であると感謝いたしております。

以下に昨年度の法人活動の報告を記します。

I 法人運営事業

1 円滑な法人運営と財源確保

法人の意思決定や合意形成の場としての理事会、評議員会をはじめ、各種会議を開催して協議・決定を行い円滑な法人運営に努めました。また人材確保の観点から、給与規程や旅費規程等について処遇改善のための改定を行い、働きやすい環境づくりに努めました。

なお、賛助会費については、複雑であった会員制度の区分を見直し、会員の種類、1口あたりの金額を統一しました。貴重な財源として、社協ふれあいフェスタ、地区社協新規事業助成等に活用させて頂きました。

(1) 理事会・評議員会等の開催

ア 理事会の開催

開催日	審議事項等	出席者
6月5日(月)	<ul style="list-style-type: none">・令和4年度事業報告・令和4年度収入支出決算報告・給与規程の一部改定・積立金の設置及び管理運用に関する規程の一部改定・令和5年度収入支出第1次補正予算(案)・任期満了に伴う次期役員(理事、監事)候補者の推薦・辞任に伴う次期評議員候補者の推薦・評議員会の招集	理事 12名 監事 2名
6月21日(水)	<ul style="list-style-type: none">・会長、副会長及び常務理事の選定	理事 9名 監事 2名
12月13日(水)	<ul style="list-style-type: none">・収入支出第2次補正予算(案)・非常勤職員就業規則の一部改定・就業規則の一部改定・評議員会の招集	理事 7名 監事 2名
3月25日(月)	<ul style="list-style-type: none">・令和5年度収入支出第3次補正予算(案)・非常勤職員就業規則の一部改定・旅費規程の一部改定・令和6年度役員賠償責任保険への加入・令和6年度事業計画(案)・令和6年度収入支出予算(案)・辞任に伴う次期評議員候補者の推薦・評議員会の招集	理事 8名 監事 2名

イ 評議員会の開催

開催日	審議事項等	出席者
6月21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告 ・令和4年度収入支出決算報告(監事監査報告) ・令和5年度第1次収入支出補正予算(案) ・任期満了に伴う次期役員(理事、監事)の選任 	評議員 14名 監事 2名
12月13日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・収入支出第2次補正予算(案) 	評議員 14名 監事 2名
3月25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度収入支出第3次補正予算(案) ・令和6年度事業計画(案) ・令和6年度収入支出予算(案) 	評議員 15名 監事 2名

ウ 評議員選任・解任委員会の開催

開催日	審議事項等	出席者
6月21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員の選任 	委員 3名

エ 監事監査の開催

開催日	審議事項等	出席者
5月23日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業及び会計決算の監査 	監事 2名

オ その他会議の開催

正副会長会議(9回)、役職者会議(12回)安全衛生委員会(12回)、事業所ミーティングなど

(2) 賛助会費

令和5年度	会員数	134件	令和4年度	会員数	162件(賛助88件、団体8件、個人66件)
	金額	843,000円		金額	899,000円

2 適正な会計管理と基金の運営

社会福祉法人会計基準を遵守すると共に、専門家の確認を怠らず、日々の会計処理に努めました。今年度は財政状況も厳しく、基金の積み立ては出来ませんでした。が、篤志家の発案による、くまの「ボランティアありがとう」賞の事業開始に伴い、ボランティア表彰制度積立金を新設することができました。

(1) 会計支援

- ア 税理士法人 名南経営による会計業務支援(相談支援、決算確認業務)
- イ 株式会社 五大OAによる会計業務支援(相談支援)

(2) 基金の状況

積立金	R4 年度末	積立額	取崩額	R5 年度末
社協運用積立金	21,914,650 円	0 円	0 円	21,914,650 円
介護保険事業等運営積立金	26,443,300 円	400 円	0 円	26,443,700 円
職員退職給与積立金	4,620,947 円	0 円	0 円	4,620,947 円
災害ボランティアセンター 運用積立金	2,619,458 円	0 円	0 円	2,619,458 円
ボランティア表彰制度積立金	0 円	1,000,000 円	15,000 円	985,000 円
合 計	55,598,355 円	1,000,400 円	15,000 円	56,583,755 円

3 職員研修の充実

令和 5 年度職員研修計画に基づき、内部研修を実施し、三重県社会福祉協議会やその他団体の研修会へも積極的に参加し、職員の資質向上に努めました。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大時からオンラインでの開催が増加し、より効率的に参加できるようになりました。

開催日	内容等	備考
4 月 4 日 (火)	・電子帳簿保存法研修会 (オンライン)	
4 月 17 日 (月)	・行動援護研修会(2 日間)	
4 月 24 日 (月)	・BCP 策定研修会 (オンライン)	
5 月 30 日 (火)	・新規採用職員研修	法人主催
6 月 5 日 (月)	・特例貸付償還免除説明会 (オンライン)	
6 月 9 日 (金)	・退職手当共済制度職員実務者研修会	
6 月 16 日 (金)	・感染症予防研修会	法人主催
6 月 17 日 (土)	・福祉有償運送運転者「初任者講習」(2 日間)	
6 月 22 日 (木)	・安全衛生研修会	法人主催
6 月 26 日 (月)	・三重県経営者協議会セミナー	
6 月 30 日 (金)	・福祉教育セミナー	
7 月 5 日 (水)	・全国福祉教育推進員研修 (オンライン)	
7 月 6 日 (木)	・多職種連携研修会	
7 月 13 日 (木)	・安全運転管理者研修会 ・労務管理研修会 ・交通安全講習会	法人主催
8 月 18 日 (金)	・就労支援基礎研修会(2 日間)	
8 月 21 日 (月)	・公正採用選考研修会	

開催日	内容等	備考
8月22日(火)	・三重県経営者協議会研修(経営管理)	
8月23日(水)	・安全衛生委員視察研修	法人主催
8月25日(金)	・同行援護従事者養成講座 ・紀南病院勉強会	
9月5日(火)	・ハラスメント研修会(オンライン)	
9月6日(水)	・三重県経営者協議会研修(労務管理)	
9月7日(木)	・デイサービス協議会研修	
9月11日(月)	・ボランティアコーディネーター研修	
9月12日(火)	・電子帳簿保存法研修会	
9月14日(木)	・新規採用職員研修	法人主催
9月15日(金)	・メンタルヘルス研修会 ・紀南救急勉強会	法人主催
9月21日(木)	・育児、介護休業法研修	
9月22日(金)	・日常生活自立支援事業 専門員資質向上研修会	
9月27日(水)	・アルコールチェックセミナー(オンライン)	
10月6日(金)	・三重県相談従事者現任者研修	
10月10日(火)	・ボランティアコーディネーター研修	
10月20日(金)	・交通安全講習会	
10月23日(月)	・AED研修会 ・三重県経営者協議会研修(人事考課)	法人主催
10月27日(金)	・災害ボランティアセンター研修会	
11月1日(水)	・福祉教育意見交換会	
11月4日(土)	・三重県地域福祉研究会	
11月7日(火)	・全国社会福祉協議会活動全国会議(2日間) ・三重県社協、鈴鹿市社協視察研修(人事考課) ・おもいやり支援センター合同研修会	
11月13日(月)	・ボランティアコーディネーター研修 ・三重県相談従事者現任者研修	
11月15日(水)	・社会保険新制度説明会	
11月17日(金)	・日本通所ケア研修大会(4日間)	
11月21日(火)	・東海北陸ブロック地区町村社協職員研究集会	
11月23日(木)	・ボランティア全国フォーラム	
11月26日(日)	・認知症介護基礎研修	
11月28日(火)	・レクリエーション研修会(オンライン)	
12月6日(水)	・介護技術研修会	法人主催

開催日	内容等	備考
12月 21日 (木)	・ボランティアコーディネーター研修会	
1月 17日 (水)	・介護報酬改定研修会	
1月 24日 (水)	・障がい者雇用の基礎セミナー	
1月 26日 (金)	・市町社協 総務・経理担当者研修会	
1月 31日 (水)	・訪問介護 多職種交流会	
2月 4日 (日)	・ボランティアスキルアップ研修会	
2月 6日 (火)	・退職共済制度実務者研修会	
2月 7日 (水)	・成年後見制度研修会	
2月 9日 (金)	・在宅医療介護連携推進事業研修会	
2月 19日 (月)	・応急手当講習会	
2月 20日 (火)	・就職氷河期研修会 (オンライン) ・外国人受入研修会 (オンライン)	
2月 21日 (水)	・救急救命講習会	法人主催
3月 14日 (木)	・認知症多職種連携研修会	
3月 21日 (木)	・高齢者虐待防止研修会	
3月 22日 (金)	・在宅医療介護連携推進事業研修会	
3月 26日 (火)	・権利擁護研修会	

4 広報の充実

全戸配布である「福祉くまの」の年6回発行の他に、ホームページやSNSを活用し、地域福祉活動を中心に法人の事業に関する情報を幅広く発信しました。

またマスコットキャラクターである「くましゃん」もイベントや広報物などで活用し、PRに努めました。

5 人事考課制度導入の検討

職員の成果や貢献、勤務態度などを公平に評価することを目的に、当法人らしい人事考課制度について検討を開始しました。令和5年度は県内社協の状況を把握し、実際に運用している社協を訪問し情報収集、意見交換を行いました。

(1) 視察先 三重県社会福祉協議会、鈴鹿市社会福祉協議会

6 福利厚生 of 充実

雇用形態を問わず、誰もが安心して働きやすい職場環境を整備するため、また定着率向上も期待し、新しいポロシャツ、Tシャツ、名札を制作し、全職員に支給しました。また、永年勤続者に対しての記念品（牛肉）支給やインフルエンザ予防接種助成などは継続して実施しました。

なお、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したこともあり、歓送迎会、忘年会、レクリエーションなど職員親睦会の実施について検討を重ねましたが、万が一の集団感染による利用者への影響、スタッフ確保の不安から実施には至りませんでした。

事業名	実績数	内容
永年勤続記念事業（フルタイム）	3名	10年勤続ごとに5日の特別休暇付与
永年勤続記念事業（非常勤）	14名	5年勤務ごとに記念品配布
ソウエルクラブ掛金助成	21名	加入希望者に5,000円助成（※掛金10,000円）
インフルエンザ予防接種助成	54名	接種者に1,000円助成
資格取得助成	0名	社会福祉士、介護福祉士、ケアマネ等受験者に一部助成
介護福祉士実務者研修費助成	1名	費用全額助成

II 地域福祉事業

1 地域福祉に関する理解促進と活動の推進

コロナ感染症による制限が少なくなり、ようやく多くの事業が通常規模で実施できるようになりました。ふれあいフェスタでは、雨天にもかかわらず多くの来場者があり、福祉にふれる機会とすることができました。

生活支援体制整備事業では、この地域の福祉人材不足について検討が進められ、専門職を含め紀南地域での重要な課題に対し、継続して地域一丸となって取り組む方針が示されました。

- (1) 福祉活動専門員の配置
- (2) 生活支援コーディネーターの配置と生活支援体制整備事業（熊野市からの受託事業）
- (3) ふれあいフェスタの開催
 - 小学生対象福祉体験型フェスタ 1回 参加 59人
 - 全住民対象フェスタ 1回 参加約 500人
- (4) 地区社協連絡会議および研修会の実施
 - 連絡会議年 5回、地区社協会長研修 1回
- (5) 福祉委員活動の強化
 - 福祉委員研修会 年 2回
- (6) 熊野市社会福祉法人連絡会による協同事業（食糧及び物品提供事業、学生服の再利用等）
 - 随時実施

2 ふれあいの場づくりへの支援

ふれあいいきいきサロンでは、新たに2グループが登録され、地域住民が主体となって行う「生きがいがづくり」や「交流の場づくり」の支援につながりました。おうた、みいつカフェでは職員が地域住民と一緒に、集いの場での活動につなげることができました。

- (1) ふれあいいきいきサロン事業や地域交流の場づくりへの支援
 - 20グループ（うち新規2グループ）
- (2) おうた事業（小地域ミニデイサービス）
 - 6地区（延べ 26回実施、延べ 305人参加）
- (3) みいつカフェ
 - 11回実施（延べ 104人参加）

3 権利擁護の推進等

法人後見事業では継続して1件の受任を行いました。日常生活自立支援事業では新たに7人と契約を締結し、判断能力が不十分な方への支援につなげましたが、生活支援員の不足に加え、山間部の利用者が増えたことで、担当職員の負担が増えることとなりました。こちらも人材不足の改善はできませんでした。

(1) 日常生活自立支援事業（三重県社会福祉協議会からの受託事業）

利用者 27 人（新規 7 人、支援回数延べ 530 回）

(2) 法人後見事業（成年後見制度）

受託 1 件

(3) 弁護士による無料法律相談所の開設（毎月 1 回）

延べ 22 件

4 生活困窮者等への支援

生活福祉資金貸付事業では、新型コロナウイルス感染症関係の特例貸付償還免除の相談が増加しました。また、緊急食糧・物品の提供依頼が多く、県社協、セカンドハーベストとの連携により、スムーズに支援することができました。

(1) 生活福祉資金貸付事業（県社協からの受託事業）

相談 53 件 実績 3 件

(2) 高額療養費貸付事業

実績 0 件

(3) 助け合い金庫貸付事業

新規 1 件 貸付件数 10 件

(4) 緊急食糧提供事業・緊急時物品等支援事業

依頼件数 101 件 受渡件数 81 件

(5) ライフイベントサポート事業（衣装貸与）

実績 0 件

(6) 学習端末購入費助成事業（高等学校入学時）

実績 0 件

5 障がい者の社会参加と生きがい活動の支援

障がい者の社会参加の機会を設けるとともに、仲間作りと自立に向けた活動を支援することができました。しかし、「ふらった～」が参加者の減少により活動に繋がられず、課題を残す形となりました。

(1) 障がい者社会参加支援事業「ふらった～」 参加者減のため未開催

(2) 知的障がい者（児）生活交流会への参加・協力（南牟婁郡との合同事業） 実施 4 回

(3) 熊野市身体障害者（児）福祉連合会事務局

6 在宅生活支援と敬老事業

ふれあい給食サービス事業では、1地区で新たに会食を中心とした活動（令和6年度開始予定）の準備が始められ、全市的に福祉人材が不足する中、嬉しい事例となりました。

敬老事業については、コロナ禍前のように訪問や集まりができるようになり、従来と変わらぬ活動とすることができました。

ふれあい給食サービス事業	実施2地区	給食数延べ390食
元気見守り事業（熊野市からの受託事業）	実施10地区	延べ2,633件
食の自立支援事業（ 〃 ）	実施13地区	延べ2,735食
生活支援サポート事業（ 〃 ）	対象4地区	実施19件
敬老会	実施8地区	その他地区では記念品配布
ご長寿祈念事業（満95歳）	対象者71人	訪問44人
満百歳記念事業	対象者17人	訪問12人
徘徊SOSネットワーク事業		
福祉機器貸出事業		
ゴーイングサービス（緊急時安否確認事業）		
熊野市老人クラブ連合会事務局		

7 住民同士のつながりのきっかけづくりと世代間交流の推進

ふれあいレクリエーション大会では、参加者に楽しみながら交流してもらうことができましたが、さらに参加を増やすには、リサイクル登録制度と共に周知方法について検討する必要があると感じました。

- (1) リサイクル登録制度の促進 実績4件
- (2) ふれあいレクリエーション（三世代交流ニュースポーツ）大会の実施
実施2回 参加者延べ69人

8 福祉教育

学生向けのボランティア活動について取り組み、なんでも講座では、小中学校で福祉体験講座を開催し有意義な活動とすることができました。

- (1) 学生向け（小中学生、高校生）ボランティア活動の支援
- (2) なんでも講座（小中学校での福祉体験学習等） 小中学校で5回実施

9 熊野市老人福祉大会の開催

市内老人クラブ会員が一堂に会し、豊かな知識・経験と能力を発揮することで社会的役割を担い、社会における今後ますますの活躍を誓い合い、あわせて会の発展や地域社会に貢献した方々に感謝の意を表するため、式典を開催しました。

- (1) 開催日 2023年10月18日(水) 13:30
- (2) 場 所 熊野市民会館
- (3) 被表彰者 老人クラブ会長表彰(18名)、老人クラブ会長感謝(3名)

10 ボランティアセンターの運営

ボランティアセンターでは、ボランティア団体等との連携によりニーズをくみ取り、事業に反映させることができました。また、住民同士が地域福祉活動を称えあう新たな取り組みとして、「くまのボランティアありがとう」賞を発足させ、次年度以降の地域福祉活動につなげるためのステップアップとすることができました。

- (1) ボランティアコーディネーターの配置
- (2) ボランティアセンター運営
- (3) 各種ボランティアに関する講座の開催
- (4) ボランティア交流やグループ化に向けた支援
- (5) ボランティア情報の発行（「福祉くまの」でのページ割）
- (6) ボランティア表彰制度 くまの「ボランティアありがとう」賞

11 災害ボランティアセンターの体制づくり

能登半島地震による被災地の支援に職員を派遣し、実体験による経験値を上げることができました。災害ボランティア養成講座では、能登半島被災後に開催しましたが、受講者が少なく、募集の方法や内容を見直す必要があると感じました。

- (1) 災害ボランティアセンターマニュアルに基づく訓練実施
- (2) 災害関連の各種講座開催
- (3) 三重県内東紀州ブロック（紀北町～紀宝町）会議等への出席
- (4) 災害時支援協定等に基づく平時からの連携強化

Ⅲ 福祉サービス事業

1 居宅介護支援事業の運営

要介護者からの相談対応のほか、心身の状況・環境などに応じて居宅又は施設サービスを適切に利用できるように計画を作成し、サービス事業者、施設等と連絡調整を行いました。

死亡・入院・施設入所により、利用者の入れ替わりが激しく、短期間の支援も多くありましたが、看取りケースや地域包括支援センターからの困難ケース、緊急的なケースなどにも積極的に対応し、安定した利用者数を確保することができました。

介護度	利用件数
要支援 1	105 (108)
要支援 2	190 (131)
事業対象者	5 (15)
小計	300 (254)
要介護 1	452 (502)
要介護 2	1,140 (1,016)
要介護 3	964 (1,013)
要介護 4	357 (318)
要介護 5	268 (289)
小計	3,181 (3,138)
合計	3,481 (3,392)

() 内は令和 4 年度実績

2 訪問介護事業の運営

利用者が在宅で安心して暮らしていけるよう身体介護(入浴、清拭、手足浴、着替え等)、生活援助(洗濯、掃除、料理、買い物等)、通院等乗降介助をはじめ、その他サービスを提供しました。

(1) 井戸訪問介護

介護スタッフの人員補充が難しく、高年齢化が進む限られた職員数で派遣調整をしており、新規利用者の受け入れが困難な状況が続いた中で、研修会や班会議を定期的に行ない、サービスの質の向上に努めました。

(2) 飛鳥訪問介護

退職や育休により登録ヘルパーが不足している状況で、現在勤務する登録ヘルパーも高年齢化で腰痛等の持病悪化が相次いでおり、新規利用の受入れも厳しい状況が続きました。

利用者の死亡、入院、入所も多く、利用件数への影響も大きなものとなりました。

(3) 紀和訪問介護

前年比では、要介護3の方の利用件数に大きな減少が見られましたが、在宅から施設への移行が大きな要因と思われます。登録ヘルパーが不足する状況が続きましたが、各ヘルパーから利用者に関する細やかな情報提供を受けることで、ニーズの把握やサービスの調整は円滑に行なうことができました。

介護度	井戸		飛鳥		紀和	
要支援1(総合含む)	742	(777)	286	(402)	261	(252)
要支援2(総合含む)	2,172	(1,513)	674	(786)	350	(325)
事業対象者	112	(321)	0	(0)	95	(92)
小計	3,026	(2,611)	960	(1,188)	706	(669)
要介護1	800	(1,118)	1,051	(1,363)	610	(520)
要介護2	3,844	(2,934)	2,165	(2,511)	729	(615)
要介護3	3,958	(3,574)	4,931	(5,597)	1,363	(1,876)
要介護4	1,799	(2,464)	3,843	(2,273)	158	(52)
要介護5	3,405	(2,911)	769	(1,255)	819	(724)
小計	13,806	(13,001)	12,759	(12,999)	3,679	(3,787)
合計	16,832	(15,612)	13,719	(14,187)	4,385	(4,456)

()内は令和4年度実績

3 通所介護事業の運営

利用者の有する能力に応じ、可能な限り自立、若しくは快適な日常生活を営むことができるように、送迎、食事、日課活動、入浴などのサービスを提供しました。

(1) 井戸通所介護

令和4年度下期以降、利用者の減少が続いたものの、1年を通して回復傾向となりました。

経験の浅い職員も多く、ミーティングや研修会を通じてスキルアップを図り、サービスの質の向上に努めました。

(2) 飛鳥通所介護

重度利用者の施設入所や入院、死亡といったケースが昨年より多い傾向となり、定員に空きがあるものの、スタッフ体制等の面で、重度の方の特浴利用受入れが困難な状況となりました。

コロナウイルス感染拡大により、1月末から2月初旬にかけて7日間の自主休業がありました。

(3) 紀和通所介護

地域的に非常勤スタッフの補充が極めて困難なことによる人員不足は、他部署からの協力により何とか対応することができたものの、要介護者の利用件数が減少しました。1月にはコロナウイルス感染拡大による自主休業（1日間）がありました。

介護度	井戸	神川	飛鳥	紀和
要支援1	35 (49)	82 (58)	55 (68)	9 (71)
要支援2	316 (239)	27 (41)	372 (154)	347 (140)
事業対象者	1 (140)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
小計	352 (428)	109 (99)	427 (222)	356 (211)
要介護1	464 (547)	203 (274)	217 (572)	611 (637)
要介護2	1,612 (1,629)	271 (429)	1,150 (800)	790 (903)
要介護3	862 (738)	62 (44)	1,064 (1,324)	913 (1,027)
要介護4	623 (923)	32 (0)	238 (420)	171 (218)
要介護5	368 (421)	0 (0)	93 (98)	28 (10)
小計	3,929 (4,258)	568 (747)	2,762 (3,214)	2,513 (2,795)
合計	4,281 (4,686)	677 (846)	3,189 (3,436)	2,869 (3,006)

()内は令和4年度実績

4 訪問入浴介護事業の運営

身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図ることを目的に、健康チェック、移動介助、入浴介助、状態観察、清拭、寝衣交換等のサービスを提供しました。

市内唯一のサービス提供事業者であり、自宅で入浴したいという利用者や家族の希望に寄り添ったサービスの提供を心がけました。

介護度	利用件数
要介護3	2 (3)
要介護4	33 (28)
要介護5	378 (351)
合計	413 (382)

※要介護1.2は利用なし

()内は令和4年度実績

5 障がい福祉事業の運営

障がいのある方が、住み慣れた地域で自分らしい自立した生活が送れるように生活支援、生活介護、就労支援等、各障がい福祉サービス及び事業を実施しました。

(1) 障がい者相談支援事業（特定相談支援事業）

障がいのある方の自立生活を支援するために、サービス等利用計画書を作成し、福祉サービスの利用支援を行いました。

死亡や施設入所により、利用者数は減少しましたが、現契約者に対して安定した支援が継続できました。

計画作成件数
83 (90)

()内は令和4年度実績

(2) 障がい者居宅介護等事業

障がいのある方が住み慣れた地域で自分らしい自立した生活が送れるように、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護の支援を行いました。

相談支援担当者との連携を図り、利用者のニーズに応じた支援ができるよう努めました。

日中の常時見守りが必要な重度訪問介護については、複数の事業所で連携して支援を行う事で在宅生活を支える一助となりました。

	井戸	飛鳥	紀和
利用件数	3,651 (3,452)	634 (651)	476 (494)

()内は令和4年度実績

(3) 障がい者移動支援事業

障がいのある方に外出のための移動支援を行いました。

利用対象者は少ないものの、地区によっては定期的な利用ニーズもあり、有効に利用していただきました。福祉有償運送事業と連携することで、支援が必要な方に満足していただけるサービスが提供できました。

	井戸	飛鳥	紀和
利用件数	81 (61)	1 (0)	0 (0)

()内は令和4年度実績

(4) 地域活動支援センター事業（つみき）

障がいのある方に創作活動等を通じて日中の居場所づくりや生きがいづくり、日常生活での困りごとを相談できる機会を提供しました。

利用者数やニーズの減少、将来的なスタッフ体制の確保などを考慮して、令和6年度以降当面の間事業休止とすることにしました。

	実績	
利用件数	171	(195)
年度末時点の利用実人数	5	(5)

()内は令和4年度実績

(5) 生活介護事業（あゆみ事業所）

障がいのある方に介護サービスや生産活動の機会などを提供しました。

年度末時点での実利用者人数は増加しているものの、全体的に利用回数が減少しました。創作活動により出来上がった作品は、多くの人の目に触れるよう協力店舗等に展示するなど、事業所活動の広報にも努めました。

	実績	
利用件数	1,196	(1,442)
年度末時点の利用実人数	11	(9)

()内は令和4年度実績

(6) 重度身体障害者訪問入浴介護事業

重度の障がいがある方の身体の清潔の保持、心身機能の維持等を図ることを目的に、健康チェック、移動介助、入浴介助、状態観察、清拭、寝衣交換等のサービスを提供しました。

利用者数は少ないながらも、在宅で生活する重度障がいのある方にとっては有効なサービスとして活用いただくことができました。

	実績	
利用件数	134	(108)
年度末時点の利用実人数	3	(3)

()内は令和4年度実績

(7) 障がい者就労支援事業

雇用、保健福祉、教育等の関係機関の連携拠点として、障がいのある方に就業面及び生活面における一体的な相談支援等を行いました。

新規登録者9名の内、過半数が就職希望者でしたが、一般就労するには準備が整っておらず、就労系福祉事業所の利用に繋がる方が多くみられました。そのこともあり、就労実績につながるケースは例年と比べて少ない結果となりました。

主な支援内容等	身体	知的	精神	その他	計
相談支援	37	245	110	117	509
職場実習のあっせん	0	4	0	1	5
年度内における就労実績	1	4	0	1	6
就労定着状況	1	2	6	2	11

6 介護予防サービスの実施

高齢者の筋力低下を防止して体力の向上を図るとともに、要介護状態になることを予防し、より自立した生活が送れるような健康づくりを目指しました。

新規参加者、サポーター、OB 会員ともに、参加者同士の交流を楽しみながら、積極的にトレーニングに取り組んでいただきました。

(1) 高齢者筋力向上トレーニング事業

■OB 会会員 (1 期 4～6 月、2 期 7～9 月、3 期 10～12 月、4 期 1～3 月)

	井戸		紀和	
1 期	1,134	(968)	210	(250)
2 期	937	(781)	161	(206)
3 期	1,114	(917)	170	(190)
4 期	1,185	(994)	186	(196)
合計	4,370	(3,660)	727	(842)

()内は令和 4 年度実績

■新規参加者 (1 期 4～6 月、2 期 7～9 月、3 期 10～12 月、4 期 1～3 月)

	利用件数	
1 期	249	(216)
2 期	256	(214)
3 期	220	(153)
4 期	85	(163)
合計	810	(746)

()内は令和 4 年度実績